

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 7年 5月 7日

事業所名 りんくるプレパ 1単位

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	0	・活動内容に応じて、グループをわけたり、時間帯を調整するなど、指導訓練室が過密にならないよう工夫している。事業所内には、個々にパソコンデスクの用意と休憩スペースを設置し、比較的広いスペースを確保しているため、児童一人ひとりが落ち着いて活動できる環境づくりに努めている。	・児童数や活動内容に応じてスペース配置を見直し、よりゆとりのある環境づくりに努め、休憩スペースの活用方法も工夫し、過ごしやすさのさらなる向上を今後検討する。
	2	職員の配置数は適切である	7	0	0		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	1	0	・1階はバリアフリー化である。	・施設は2階建てであるため、足腰に不安のあるお子様や保護者様には、ご希望を優先しつつ、1階でのご案内や入所対応などの配慮を行っている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	0	・日々、振り返りを行いより良い支援ができるように心がけている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	0	・毎年保護者等向け評価アンケートを実施し、保護者様の意向を基に業務改善に努めている。	・アンケート結果を基にした改善策について、今後は多くの職員が参加できるよう定期的な職員ミーティングの体制を整えていくことを今後検討する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2	0	・会報は今のところ整備していないが、ホームページには毎年公開している。	・自己評価の結果をホームページに公開している現状を踏まえ、今後はその結果を職員間でさらに共有し、どの情報がどのように公にされるかについての意識を高めていきます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	2	0	・外部評価があるのかを認識していない。	・外部評価は自治体による(実地指導)のみになる。その他の外部評価が今後必要であれば検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	0	・社内研修を行っている。外部研修はZoomなどオンラインを使用し参加している。	・研修の開催内容アーカイブやシェア等を行い職員全体に周知する方法を今後検討する。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	0	・全ての支援者から、5領域に沿った利用児童の日々の評価に合わせ、保護者様からのアセスメントを用いて、ニーズの分析に役立てている。	・個別支援計画書の作成手順を職員全体への実施周知方法を今後検討する。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2	0	・契約時や、個別支援会議等にて事前に事業所で作成したアセスメントシートにて保護者様とお子様の要望等を聞き取りし把握している。	・標準化されたアセスメントシートに該当しない場合には今後変更を今後検討する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	0	・土曜日・長期休みに関して、正社員が児童の状態や、成長段階によって必要な支援内容を踏まえ活動プログラミングを立案・児童発達支援管理責任者が内容を確認した上で実施している。	・プログラム立案時に、より多角的で柔軟な支援を提供できるよう、多くの職員が参加できる体制を整えていくことを検討する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0	・野外活動や成長段階合わせた必要なSST(ソーシャルスキルトレーニング)を取り入れ様々な経験ができるよう工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	0	0	・平日は活動プログラムの複数固定の選択制活動を導入し、社会生活を見据え、先の見通しがたてられるよう、子ども達自身で選択してもらい、自立に向けた支援に重きを置いている。長期休み・土曜日はリフレッシュ日とし活動内容を立案し実施している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0	・毎朝、前日の振り返りや本日の支援についてミーティングを行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2	0	・支援終了後ではなく、翌日に前日の振り返りを行っている。	・日々の社内ミーティング議事録を作成・共有している体制を今全職員が議事録を確認し合い、必要な情報が行き届くよう声かけや確認の習慣づけを行い、支援の質向上につなげます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	1	0	・正社員・パート、全ての支援者から、5領域に沿った利用児童の日々の評価記載を基に個別会議を行い、計画書の見直しをしている。	・職員全体周知方法として、会議議事録を作成し、回覧にて共有しているが、職員全体への周知方法を今後検討する。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	5	2	0	・児童一人ひとりの特性や成長段階に応じた柔軟な支援に心がけ、必要に応じて組み合わせや、順序を個々によって対応することで効果的な支援に努めている。	・全職員がガイドラインに基づいた支援の考え方を理解し、実践できるよう勉強会や振り返りの機会を増やし、支援の質の統一と向上を目指します。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	2	0	・普段支援している職員からの事前に詳しくお子様の様子や変化を聞き取り、児童発達支援管理責任者に共有する体制を整え、会議に参加している。	・サービス担当者会議の役割や参加体制について、児童発達支援管理責任者への共有の流れを明確化することで、すべての職員が一貫した理解のもとで連携できる体制を整える。
関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	1	0	・各学校とのスクリレ(情報共有ツール)登録を積極的に行い、情報共有に努め、スクリレを開催していない学校に関しては、週の初めに電話にて下校時刻の確認や送迎時に週間日程表を頂き共有している。急な下校時間の変更等は保護者様と連絡を取り合い、送迎トラブルの無いよう努めている。	・職員間での共有をさらに徹底し、誰が対応しても正確な情報伝達ができるよう確認体制を強化し、全職員が安心して対応できるよう、情報共有と連絡体制の質を高めていくことを目指します。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	2	0	・対象保護者様から児童の主治医による「活動についての留意点や、投薬の取り扱い方などの留意点」を共有してもらい安全に利用できるよう努めている。	・児童ファイルを定期的に内容を確認・熟読できるよう、閲覧のタイミングや方法を明確にし、全職員が共通理解を持って支援に携われるよう体制を整える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	1	1	・対象児童がいない。	今後、対象児童が出た場合には、全体的に周知出来るように体制を整えていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	1	1	・事例がない。	今後、対象児童が出た場合には、全体的に周知出来るように体制を整えていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	0	・研修があれば参加したい。	専門性機関との連携、研修の周知方法を検討する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	3	1	・野外活動や事業所近くの公園遊びでは、地域の児童との交流がある。	・今後は地域児童との交流機会を増やすように体制を整える。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	2	0	・児童発達支援管理責任者が参加している。	・今後、参加対象者・人数に制限のない研修は積極的に参加できるよう体制を整える。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1	0	・連絡ノートやLINEを通して保護者様へ日頃の様子や出来事を伝えている。	・職員間での情報の整理・共有を徹底し、保護者様と全職員が共通理解を持てる体制を整えます。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	1	0	・外部のペアレント研修実施の案内共有や、電話にての相談は常時行っている。	今後は、保護者会等に外部講師を招いてペアレント・トレーニングの機会を検討する。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	0	・契約時に保護者様にしっかり伝わるように丁寧に説明を行っている。	・児童ファイルに運営規程や支援内容、利用者負担に関する資料を全て整備しているため、今後は職員が定期的に内容を確認・熟読できるよう、閲覧のタイミングや方法を明確にし、全職員が共通理解を持って説明できる体制を整える。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	0	・電話やLINEを活用して保護者といつでもやり取りできる環境を整えています。	・保護者様からの相談内容を適切に共有し、支援に役立てるとともに、保護者の悩みに対してよりの確な助言ができるよう、職員間での情報共有と対応力の向上に努めます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1	0	・今年度の保護者会は1回の開催であったが、中高生移行児童保護向けに合同説明会毎年9月に開催している。	・保護者会の開催内容アーカイブやシェア等を行い職員全体に周知する方法を今後検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1	0	・玄関先に苦情ボックスを設置しいつでも相談できる環境を整えとともに、日頃から電話やLINEにて保護者様の相談に応じ、苦情があった際には迅速かつ丁寧な対応を実施している。	・苦情対応の体制を全職員がその手順や役割を正確に理解し対応できるよう、定期的な研修やロールプレイを通して対応力を高められる環境づくりを目指します。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1	0	・会報等の発行はないが、行事予定は予約表で共有し、連絡は電話やLINE必要に応じて公文も発行、支援方法はホームページにも掲載し対応している。活動の様子もブログ等で発信し保護者様に情報共有を行っている。	・今後は情報をより見やすく整理し、職員間で話し合い、より伝わりやすい情報共有を目指す。
	35	個人情報に十分注意している	7	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	1	0	・年に1度発表会を開催し、保護者様のご家族、その他知り合い、関係機関者(相談支援員・学校)を招待をしている。	・事業所行事の一部(夏祭り等)に招待・地元消防や自治会と連携し、防災訓練を共に実施・地域で開催されるボランティア活動に参加するなど機会を設け地域との交流を積極的に作ることを検討する。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0	0	・入社時と契約時にマニュアル内容の説明を行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1	0	・火災・地震・津波・不審者の各災害を想定した避難訓練を、半年に一度のペースで順番に実施し、児童と職員の安全確保と対応力の向上に努めています。	・全職員に対して、防災訓練に関する共通理解が深まるよう周知を徹底していきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	1	0	・現在、身体拘束を必要とする児童はいませんが、万が一に備えて指針やマニュアルを整備し、新人研修等を通じて対応方針を職員全体で共有しています。冷静かつ適切な対応ができるよう、継続的な確認と研修を行っています。	・身体拘束が発生しない支援を引き続き実施できるよう、予防的な支援方法を見直し、マニュアルや研修内容を定期的に更新し、万が一に備えた共通理解と対応力を維持します。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	0	・契約時に保護者様から確認を行い、個人情報に配慮し指導員全体に周知している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1	0	・インシデント・アクシデント報告書の作成を実施し、全事業所で確認できるよう共有を工夫し、日々安全に支援できるよう努めている。	・インシデント・アクシデントに至らなかった小さな気づき(ヒヤリハット事例)も職員間で共有できるよう、ヒヤリハット記録様式作成を今後検討し、報告しやすい環境を整える。